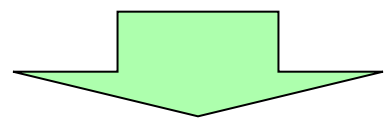


# 東海市(北陸圏・中部圏ブロック)

【計画期間 23年6月～28年3月】

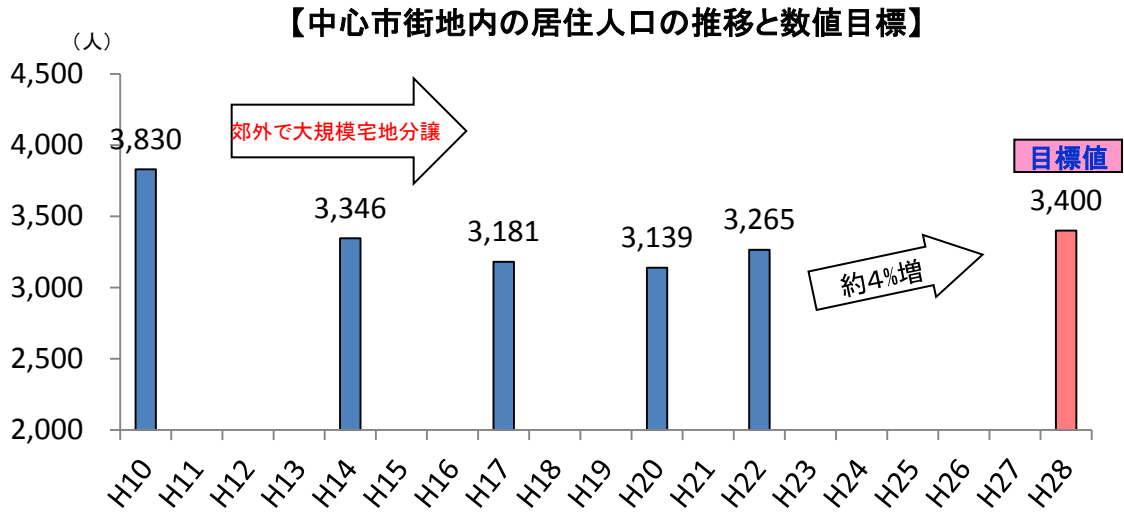
・昭和～ : 農漁業を中心とした地区だったが、昭和6年の鉄道の敷設により太田川駅が交通結節点となったことで、駅周辺が市の中心として発展。昭和30年代に愛知用水が完成し、農業・工業が発展。鉄鋼企業が臨海部に進出し、中部圏最大の鉄鋼基地へ発展。急激に人口増加。

- 高度経済成長期における急激な人口増加に伴い、郊外へ人口が流出。
- 平成に入ってから商業活動も大きく衰退し、中心市街地としてのにぎわいが低下。
- 衰退に歯止めをかけるために実施されている土地区画整理事業、鉄道連続立体交差事業等により、都市基盤施設が整備されつつある。



- 中心市街地内の居住人口  
H10: 3,830人 → H22: 3,265人 (▲15%)
- 卸売・小売業年間販売額  
H9: 203億円 → H19: 76億円 (▲63%)

目標	指標	現況値 (H22)	目標値 (H28)
街なか居住の推進 ～住みたくなるまちづくり～	中心市街地の 居住人口	3,265人	3,400人
来街者の回遊性の拡大 ～訪れたくなるまちづくり～	歩行者・自転車 通行量(休日)	1,174人/日	1,470人/日



- まちの魅力を創出し、人々が中心市街地に住みたくなるまちづくりを目指す。  
→主要事業: ①駅西地区市街地再開発事業、②東海太田川駅周辺土地区画整理事業、など
- 中心市街地を市民の交流拠点・にぎわいの拠点とし、人々が訪れたくなるまちづくりを目指す。  
→主要事業: ③50m歩道整備、④駅西地区商業施設誘致事業、など

# 東海市中心市街地活性化基本計画の事業概要

## 街なか居住の推進 ～住みたくなるまちづくり～

### ○駅西地区市街地再開発事業(①)

文化活動を通じたにぎわいの拠点として、ワークショップ等の参加体験施設、文化活動の練習場等の文化創造施設、多目的ホール、マンション等を備えた再開発ビルを整備。



### ○東海太田川駅周辺土地地区画整理事業(破線部)(②)

道路、駅前広場、50m歩道を始めとする歩行者専用道路など、住みやすい快適な都市基盤を整備。



### ○名古屋鉄道常滑線等(太田川駅付近)連続立体交差事業(⑥)

鉄道踏切による交通の遮断や地域の分断等の問題を解決するため、太田川駅周辺の鉄道を高架化。



### ○公園事業(⑦)

住民交流の場として、駅西地区の公園を整備。

### ○駅西・東歩道整備(⑧)

駅西・東に50m歩道につながる歩行者専用道路を整備。

### ○エコプロムナード(⑨)

市内の歴史文化(知多四国霊場等)を説明する案内板、ルートサイン、ベンチ等を整備し、まちなか散策を促進。

### ○太田川駅前にぎわい創出・PR事業(⑩)

### ○「地産地消にぎわい市場」事業(⑪)

### ○にぎわい創出イベントプロモート事業(⑫)

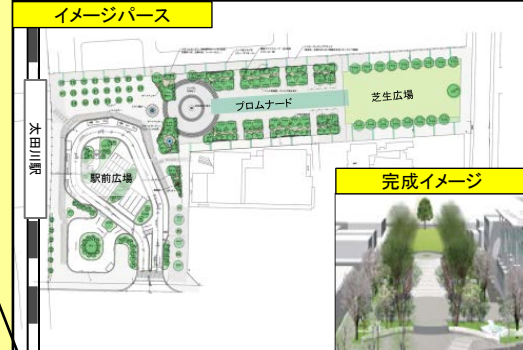
整備した50m歩道、駅前広場において、山車まつりや市場など各種イベントを実施。



## 来街者の回遊性の拡大 ～訪れたくなるまちづくり～

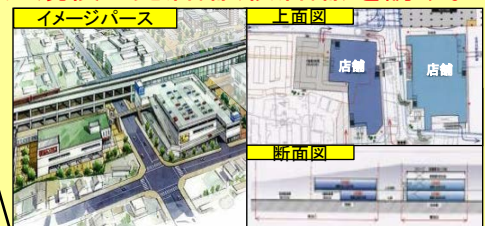
### ○50m歩道整備(③)

市民の交流拠点・にぎわい拠点として、芝生広場、けやきプロムナードなど、緑あふれる憩いの場として活用できる公共空間を整備。



### ○駅西地区商業施設誘致事業(④)

ユニー及び名鉄所有地の街区に大規模小売店舗(核店舗)を誘致。



### ○駅前広場整備(⑤)

駅東にバス、タクシー、一般車両ロータリー、駅西に再開発ビルと連動する空間を整備。

